

加藤平五郎（かとうへいごろう）

万延元年（1860）に棚尾村の平兵衛の五男として生まれた。2歳の時、本家である新川の加藤磯治郎の養子となった。

慶応3年（1867）7歳の時、精界寺の佐々木恵遠に教えを受け、次いで清沢西天の塾に通って和漢の書を学んだ。14歳の時には近隣の子に計算の

初歩を教えるほどに進歩していた。20歳で大浜村の役場に勤務し、名古屋で行われた珠算大会に出場し第一位となった。

明治16年（1883）に新川の豪商で地主の岡本八右衛門の番頭となり、明治20年より米津村や安城ヶ原の原野を開墾して、岡本農場の支配人になった。

明治28年に北海道開拓のため同志19人と共に入植した。最初は寒さの害で作物の収穫ができなかった。明治30年に日常生活の便宜をはかるために三川駅の開設に努力した。翌年には三川簡易教育所を開いて子弟の教育にも力を入れた。明治31年に家屋14棟が流失するという大水害を受けた。その後も干害・冷害・いなご大発生に苦しんだ。しかし苦難に負けず、排水路を開削し、橋をかけ、ため池をつくるなどの開拓を行った。また住民のために明治32年（1899）に三川仏教説教所を開き、40年には郵便局も開設した。

大正10年（1921）に大日本農会より農事改良の功により表彰された。そして12年には由仁村農会の会長に選ばれた。大正14年4月に国から勲八等瑞宝章を授与されたが、7月に65歳の生涯を閉じた。

昭和5年（1930）由仁町の人々は平五郎の功績を称えて三川駅前に胸像を建てた。



加藤平五郎

（碧南市発行「碧南辞典」より引用）